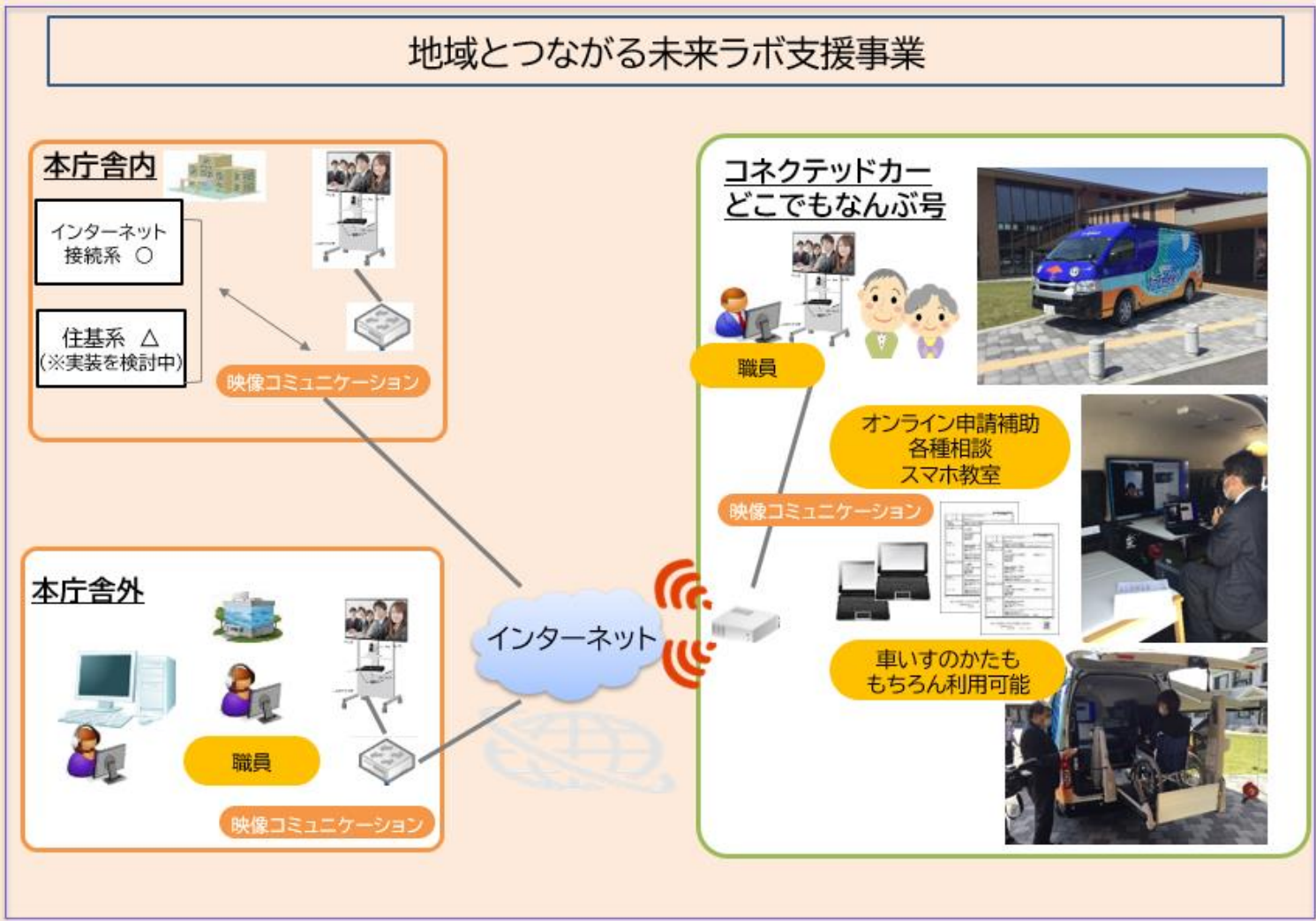


取組名称「地域とつながる未来ラボ支援事業」概要図（実装部門）



取組調書（実装部門）

地方公共団体名	鳥取県 南部町		
取組名称	「地域とつながる未来ラボ支援事業」		
連携自治体、企業、団体等			
デジタルを活用した取組の概要（デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	(種類) (注)	②	(左記が①の場合の分野)
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】</p> <p>○移動通信機能を実装し、目的に応じて車内を可変できるマルチタスク型のコネクテッドカー「どこでもなんぶ号」を導入し、地域の公民館・集会所に出向き、交通弱者や高齢者を含む住民へ、ニーズに合った行政サービス提供を行う。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○社会のデジタル化が進展する一方で、高齢者などデジタル技術に慣れない方も少なくない。さらに当町では高齢者の免許証返納を推進しているが、公共交通機関が脆弱ということもあり、自由に役場に赴くことが困難な方も増えていくことが予想される。</p> <p>【解決した課題の具体的内容】</p> <p>○会場を設定しての高齢者向けスマホ教室を実施しているが、会場に来ることが難しい高齢者向けに「どこでもなんぶ号」を活用した出張スマホ教室を開催した。</p> <p>○出張スマホ教室では、デジタル社会では欠かすことのできないスマホの操作に慣れ親しんでいただくとともに、電子申請を体験してもらいデジタル技術を身近なものとして感じてもらった。</p>		
デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	<p>【取り組みが目指すアウトプット】</p> <p>○スマホ教室 受講人数：4年度 200人、5年度 300人、6年度 300人</p> <p>○電子申請体験支援 支援人数：4年度 100人、5年度 150人、6年度 150人</p> <p>【取り組みが目指すアウトカム】</p> <p>○電子申請の利用数：4年度 200人、5年度 300人、6年度 400人</p>		

南部町

本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・「どこでもなんぶ号」は目的によって、車内を可変できる仕様となっており、特に車いすのかたでも利用できるように、車いす用のリフトも装備されており、どなたでも利用できるバリアフリーの設計となっている。・また、移動通信機器に加え、液晶ディスプレイ、ノートパソコン、複合機を搭載しており、災害時における現地対策本部や、避難所に駐在し役場の機能を果たすことも期待できる。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none">・町立病院である西伯病院と協働し、交通条件や自然的、経済的に恵まれない「辺地」である南さいはく地区において、巡回診療の実施に向け調整を行う。また、オンライン診療についても、西伯病院側と合意形成を図り実施したい。・当町の住民自治組織である地域振興協議会（7か所）を訪問し「どこでもなんぶ号」の紹介をするとともに、スマホ教室や電子申請など住民からの要望を聞き取り、今後の活動に生かす。

注： 以下の①または②のいずれかを選択

① デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。

（・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災）

② 高齢者、障がい者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。